

Title	朝鮮半島情勢と日本の対応実施結果：アンケート集計結果の概要(総合研究所 News：日韓現代史研究センター学術セミナー)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.4, 2012.2：29-31
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3695
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

日韓現代史研究センター学術セミナー
朝鮮半島情勢と日本の対応
実施結果—アンケート集計結果の概要—

わが国の安全保障に重大なかかわりをもつ朝鮮半島情勢は昨年、韓国哨戒艦沈没事件や北朝鮮による韓国領砲撃によって緊張が高まった。日米韓は北朝鮮にさらに圧力をかけ始めたが、他方、北朝鮮は来年、「強盛大国」の扉を開くとして中国、ロシアとの協力関係を一層緊密にする動きが目立つ。北朝鮮の核問題解決をめざす6者協議は先行きが不透明だが、北朝鮮第1外務次官の訪米、また南北朝鮮の接触など事態打開への動きも注目される。北朝鮮の対中・対韓関係強化は朝鮮半島の今後にどのような影響を与えるのか。それに対して日本はどう対応するのか。韓国元統一相をはじめ北朝鮮問題専門家たちが地域の動向と問題解決の道について討論する。

日時 2011年10月29日（土）9：30～12：30
場所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

講演1 「北朝鮮の対中・対韓協力強化の及ぼす

影響」

康 仁徳（聖学院大学総合研究所特命教授・元韓国統一省長官）

講演2 「北東アジアの動向と日本」

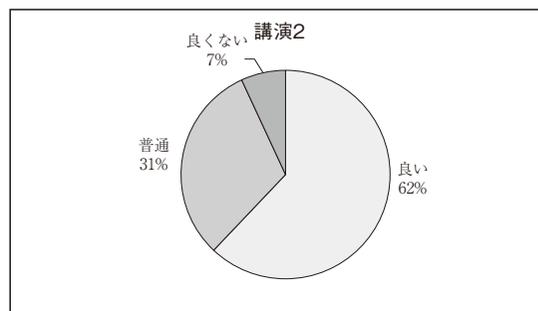
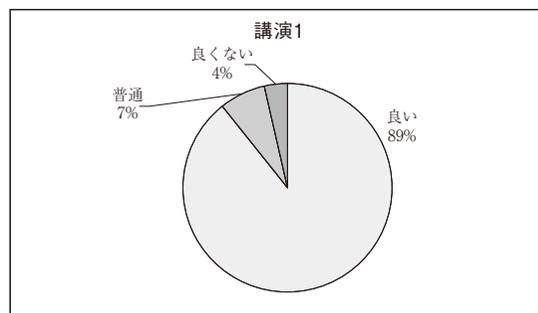
鈴木光男（外務省大臣官房総務課警備対策室長（前同省第三国際情報官室情報分析官））

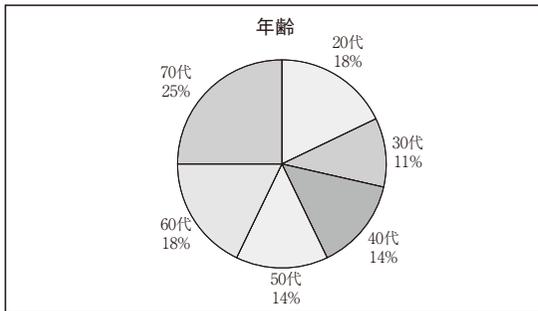
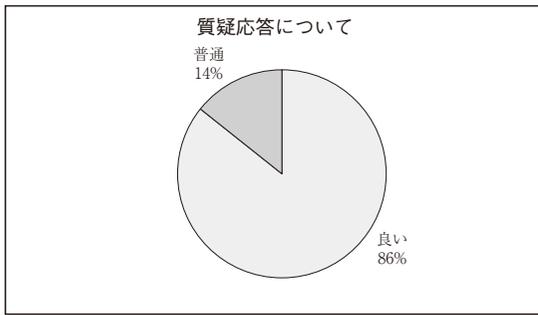
コメント 宮本 悟（聖学院大学総合研究所准教授）

コーディネーター 小田川興（聖学院大学総合研究所特命教授）

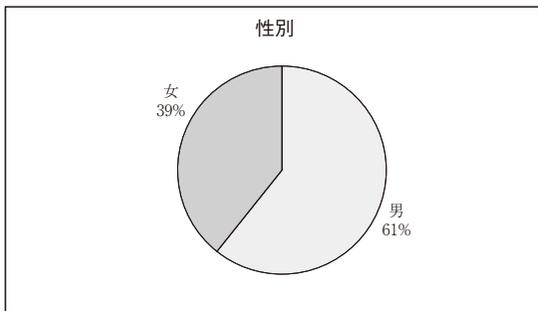
【結果の概要】

- ・参加者は50名。内アンケート回答者は29名だった。
- ・講演1について、「良い」が89%と高い評価だった。講演2について、「良い」が62%だった。
- ・質疑応答については、「良い」が86%であった。

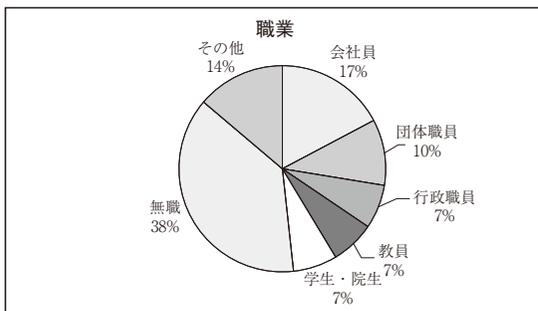




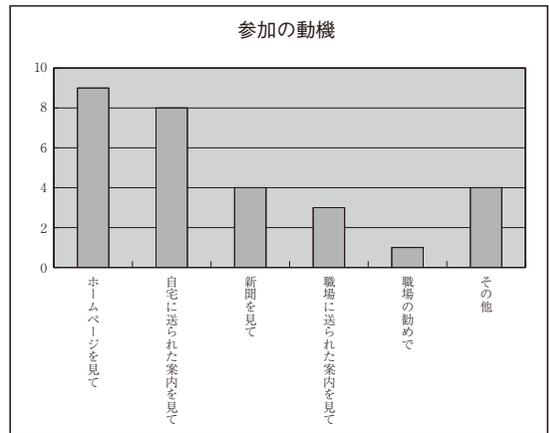
* 回答者の年齢は、「70代」が最も多かったが、すべて世代から平均的な参加があった。



* 性別は、男性が61%、女性が39%であった。



* 職業別では、「会社員」が17%、次に「団体職員」が10%となった。



* 参加の動機としては、「ホームページを見て」が最も多く、次に「自宅に送られた案内を見て」となった。

「その他」の内容として、「友人の勧め」「先生から聞いて」「知人の紹介」「雑誌で知って」など。

自由意見

- ・日頃興味のある内容なので伺いました。聖学院がこの問題に深く係わり、このような集いを計画されている事は素晴らしい事と思います。今迄の資料を論文にまとめて出されている本を拝見し、この問題に興味を持つようになった事、感謝しています。
- ・韓国、北朝鮮、ロシア、中国、どれ一つ取り上げても問題が大きい。これを短時間に一括して話すことは無理と思われる（年齢的なものなのか?）。一つの問題についてもより深く知りたいことの思いを強くした。機会があれば、より掘り下げたセミナーを希望します。



聖学院大学総合研究所特命教授 康仁徳氏



外務省大臣官房総務課警備対策室長 鈴木光男氏

- ・各講師の先生方の講演はとてもわかりやすく北朝鮮の状況がわかったような気がしました。新聞、テレビなどでニュースの見方が私なりに特別な見方ができてくると思いました。ありがとうございました。
- ・本日はありがとうございました。本日のセミナーの論題でもある日本の対応についてもっと具体的なお話を伺えたらと思いました。また、質問をしましたが時間内に消化されず、とても残念でした。時間配分のコントロールをもう少しフレキシブルにやっていただきたいと思います。
- ・中国は北朝鮮という、重い荷物を背負ったような気がする。中国は、現在はGDP世界2位の経済力があるため、北朝鮮を経済的に面倒みられる。しかし、中国の経済が停滞した場合には負担になるのではないか。北朝鮮の世襲制は国の内部からの暴動をして国民が動かない限り難しいだろう。



後半はディスカッションが行われた。左より小田川興氏、康仁徳氏、鈴木光男氏、宮本悟氏

- ・北朝鮮を見るにあたり、アフリカ諸国との関係にも着目すべきという点は知りませんでした。北朝鮮との関係をみるときに韓国と米国くらいと、日本以外のプレイヤーで解決にあたっての協力関係は上記くらいであろうと思いましたが、確かにロシアを含めて日韓米露がメインプレイヤーかも知れません。しかしながら、アフリカやモンゴルといった北朝鮮を取り巻く他のプレイヤーからの外溝をうめることもあるいは必要で、また分析することの重要であると認識を新たにしました。
- ・質疑応答のコーナーで宮本先生のコメントが両先生方の講演の聞き方をよりわかりやすくまとめて説明してくださったのがわかりやすく大変参考になりました。
- ・北朝鮮という地域がどのようなものなのか、またそれにどう対応していくべきなのか、改めて考えさせられた。
- ・質疑応答の時間を多くとってほしいです。3時間は長いと思って来ましたが、もっと長い時間の講演会でも良いと思いました。2月を楽しみにしています。ありがとうございました。
- ・康先生は常に新しい情報を求めておられ、明快な視点を示されることに感謝しています。
- ・スタッフの皆さまご苦勞様でした。ありがとうございました。
- ・休憩時間のとり方にもう少し工夫してほしい。